

## 北海道地震津波の記録

# 「海が吠えた日」より

津波で家を流された

宮田 故 喜来晴茂

昭和二十一年十二月二十一日未明、大きな地震が揺れだした。

家族みんなで近くの観音寺川のそば、横田喜代一さんの家の前へ逃げていた。

地震が治まって、しばらくして、「津波ヤー」という誰かの叫び声を聞いて、そのまま妻と子供を先に、土手の道づたいに灘道の方へ逃げさせた。

私はすぐに家に引き返して、布団とローソクをもって外へ出て

みたら、もう観音寺川の方では、ジャブジャブと波の音がして、津波の第一波が押し寄せていた。無我夢中で命からがら妙見さんへと逃げた。

夜が明けて、家に帰ってみた。家は残つとるぞ！、と喜んだがヌカ喜びだった、屋根はあるが家の中はカラッポ、柱だけが残っていた。波の高さは私の背丈より高く、二メートルぐらいまで来ていた。

それからが大変だった。地上げして家を建てるまで苦労した。



清流荘での津波体験座談会  
(平成6年9月3日東の東老人会東クラブ)